

令和6年4月11日

都道府県高等学校野球連盟
審判委員の皆様へ

日本高等学校野球連盟
審判規則委員会

「甲子園から全国へ～第96回選抜高等学校野球大会」

今大会は大会創設100年目、阪神甲子園球場も100周年を迎えるという節目の大会となりました。
雨天順延2日間の影響を受けて休養日が1日となり、11日間の日程で行われました。

新基準の金属バットへの完全移行、内野手（捕手を含む）が投手のもとへ行ける回数制限、高校野球特別規則27.、同28.を削除という、規則・運用変更が行われました。

タイブレークは4試合あり、9回換算の試合時間は2時間2分（95回大会2時間4分）でした。

今年の「重点指導事項」および「周知徹底事項」を踏まえ、今大会での気付いた点や指導事項他を以下の通り共有致します。

1. マナーについて

- (1) ベースコーチや打者走者が「セーフ」のジェスチャーをする行為。
- (2) 勝利校の校歌斉唱後にバックネット方向にも全員で「礼」をする行為。
- (3) 自チームを鼓舞する（煽る）、過剰なガッツポーズ。

2. 規則に関する事項について

- (1) 捕手がキャッチャースボックスから大きく身体を出して構える行為。
【公認野球規則 5.02(a)】
- (2) 木製バットの使用に際し、使用可能なバット・滑り止めスプレーの使用禁止の確認。
【高校野球用具の使用制限】

3. 投手の投球動作について

- (1) ワインドアップポジションかセットポジションかの区別がつきにくい投球動作。
【公認野球規則 5.07(a)】
- (2) 自由な足を上げた後、一度足が地面に着いてから再度自由な足を上げて投球する投手。
【公認野球規則 5.07(a) 原注】

4. 試合進行について

- (1) 捕手が投手のもとへ行くケースは1試合平均2.1回（95回大会3.7回）となり、95回大会より減少し、内野手が投手のもとへ行くケースはありませんでした。
- (2) ベースコーチのコート着用を公認野球規則 3.03 注の通りとしました。
着用はチームの判断とし、1・3塁のベースコーチの揃った対応をお願いしました。
- (3) 不要と思われる牽制球を投げる投手が多く、課題となりました。

5. 審判技術の課題

- (1) 2塁塁審のスタート・プレイポジションについての技術向上。
- (2) ランダウプレイ時のラインアウトの規則適用について再確認。
- (3) 1塁でのフォースプレイ（タイミングはセーフ）において、打者走者がベースを空過する事例への対応。

以上